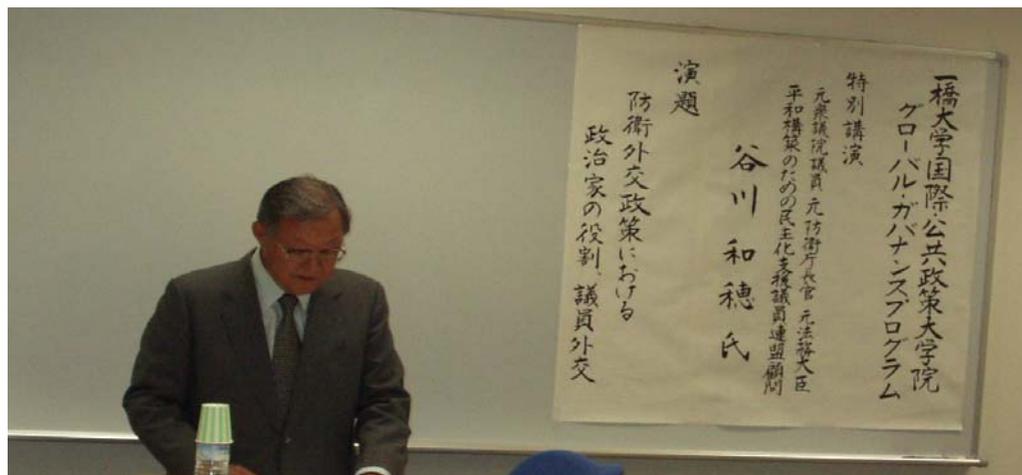


谷川和穂先生『特別講演会』



11月8日（火）グローバル・ガバナンスプログラムの授業、【Japan's Foreign Policy Making】におきまして、元衆議院議員、元防衛庁長官、元法務大臣で現在は「平和構築のための民主化支援議員連盟」顧問を勤めておられる谷川和穂先生に『防衛・外交政策における政治家の役割・議員外交』というテーマで特別講演をおこなっていただきました。

ここに簡単ではありますが要旨と経歴を掲載いたします。

『防衛・外交政策における政治家の役割・議員外交』特別講演要旨

在ペルー日本大使館人質事件（1996年-97年）での宗教関係者などを交えた交渉から説き起こし、国家対国家という従来型の紛争解決の枠組みだけでなく、国家以外のアクターが紛争解決において果たす役割があるのではないか、という問題提起から講演が始まりました。

中東和平交渉や、ご自身が顧問を務めておられる「平和構築のための民主化支援議員連盟」（超党派）での経験を紹介しつつ、予防外交・紛争解決・和解プロセスなどにおいて多元化する外交の一翼を国会議員が担う意義について、「超党派」・「国際的ネットワーク」・「ダブル・トラック外交（トラックⅡ外交あるいはセカンド・トラック外交をあえてこう呼んで）」をキーワードに論じられました。特に市民社会・NGOと政府との間に架け橋として存在しつつ独自に活躍するノルウェーや米国の議員外交の例の紹介がありました。

質疑応答では、議員外交の正統性や財政的背景、他国の議員連盟とのネットワークなどについて質問があり、活発な意見交換が多岐にわたって行われました。



谷川和穂先生経歴



慶應義塾大学大学院を卒業後、1958年衆議院議員選挙に立候補し、全国最年少の27歳で初当選しました。

2003年に政界を引退するまで当選12回、その間1982年からは防衛庁長官、1989年には法務大臣を勤められました。

田中真紀子外務大臣辞任後に作られた「政と官のあり方等検討協議会」の座長を勤められ、外交における政治家と官僚の役割などについても積極的に提言してきました。

政界引退後は、「平和構築のための民主化支援議員連盟」顧問を勤めており、現在もなおご活躍中です。